

排水機場の整備により 浸水被害を低減、産業立地にも貢献



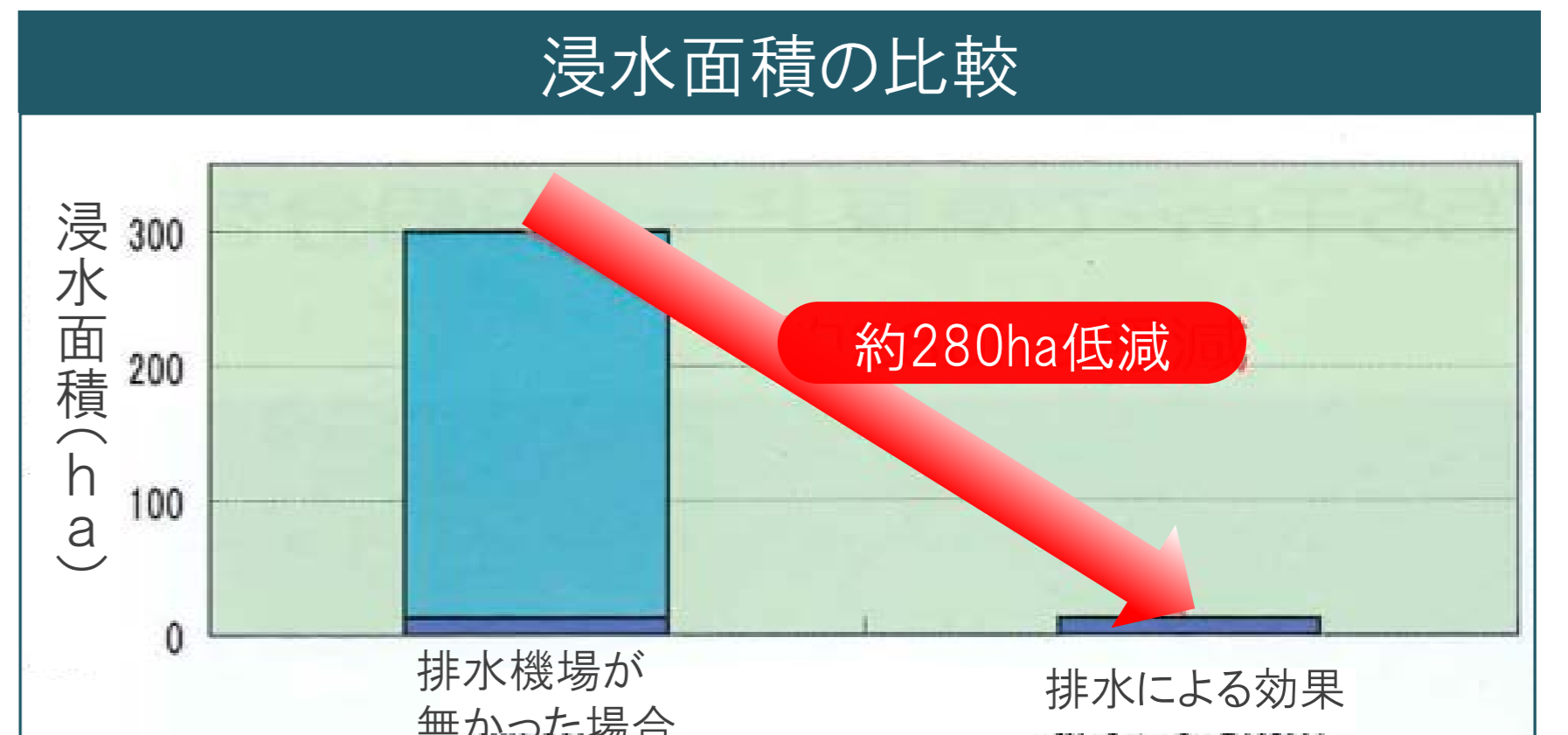
荒川(入間川) 川島排水機場(埼玉県)

荒川上流部改修から
100年
1918-2018

- 川島地区は周囲を5つの川に囲まれており江戸期から頻発する水害に苦しめられていた地区。
- 内水被害を低減させるため、昭和56年に川島排水機場を整備し、さらに平成6年、13年にポンプを増設。
- 平成19年9月台風9号の出水時には、川島排水機場稼働させることにより約280haの浸水面積を低減。
- 川島排水機場や周辺の排水路の整備により、排水状況が改善され、圏央道川島インターの整備やそれに伴う産業団地、ショッピングモールの立地促進にも貢献。

川島排水機場の整備により浸水被害を低減

＜平成19年9月台風9号による浸水区域と排水機場の効果（想定）＞



川島排水機場の整備等により排水状況が改善され産業立地にも貢献

川島インター産業団地の整備状況



排水機場が無かったら、インターもできなかった ～川島町 飯島町長のお話～

かつては大雨で町内の多くが水につかる有様でしたが、町内の主要排水路の整備率も上がってきて、さらに川島排水機場が整備され、その働きにより、町内の排水状況が改善しました。

圏央道の川島インターを整備するときも、道路の排水が課題でしたが、川島排水機場があることで排水は可能となり、進められました。

インターができ、周辺には産業団地やショッピングモールがオープンしました。また、新たに産業団地の計画も進んでおり、これも川島排水機場が整備されたおかげと思っています。



(飯島町長)